

令和元年度

滋賀文教短期大学事業報告書

## 1 滋賀文教短期大学

### (1) 教育理念と建学の精神

#### 【教育理念】

「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教員の養成が重要である」

#### 【建学の精神】

「知育・徳育・体育」の鼎立と調和の取れた人間形成

#### 1. 教育活動

教育理念と建学の精神は、私立学校の根幹であり、全ての教育研究活動に通じていなければならない。

国文学科、子ども学科で開設されている教養科目「基礎力プログラム」にて、建学の精神の周知及び、それに基づく自校教育や学修成果の涵養に努めた。

また、子ども学科の実習指導においても、建学の精神に基づき、知識技能のみならず、「徳育」の面からの教育に努めた。それらの教育を全教員が共通して実施できるよう、実習内規も抜本的に改正した。

#### 2. 学内外への表明

年度当初の教員連絡会にて、学長講話の時間を設け、専任教職員及び非常勤教員に、学園の沿革、教育理念及び建学の精神、教育目標、学訓について研修を行った。

学生には、入学前のプレキャンパスセミナーからふれると共に、入学後も入学式での学長式辞やオリエンテーション等にて説明を行った。

#### 3. 各学科の特徴的取組

#### 【国文学科】

##### i) 必修科目「基礎力プログラム」

国文学科の教育目的で定めている育成すべき人材像である「自立した社会人として現代社会に貢献できる人材」に必要な能力を涵養するために設置している科目である。自立した社会人が身につけておくべき「考えや意見を発信できる力」「課題を解決するための基礎的な力」「他者と協働するための基礎的な力」を身につけ、高めることができる。グループ学習では、P（計画）・D（実行）・C（評価）・A（改善）を繰り返しながら課題を解決し、自ら学び成長することが期待できる。その力が、就職活動はもちろん、就職後に活躍できる人材育成につながるよう、2年間をとおしたレベルアップ型授業形態を展開している。

##### ii) 専門ゼミ

基礎力プログラムと併せ、読む・書く力や調べる力のほか、コミュニケーション力やプレゼンテーション力などの社会人基礎力を向上させる目的で、特色あるゼミを開設している。ゼミごとに特色があり、自らがテーマや課題を見つけ、地域と関わるフィールドワークなども実施し、主体的・能動的に学ぶことができる。

##### iii) 司書資格取得可能

滋賀県内では唯一、司書の資格を取得できる。図書館の機能や役割等を学ぶとともに、知識を深め、資料の整理やレファレンスサービスなど専門的知識を得ることができる。また、長浜市との連携協定により、図書館の多彩な業務に対する理解を深める図書館インターンシップを実施している。

#### 【子ども学科】

##### i) ぶんぶんひろば

地域の子育てを学生と一緒に支援する取組「ぶんぶんひろば」を開催し、現場対

応力や実践力などを育成している。幼児とのふれあいをとおして、保育の実践力を向上させる機会になることはもちろん、地域の子育て支援にも貢献している。

ii) アクティブ・ラーニングを核にした授業

実際の教育・保育の現場で生かせる知識を学び、実践的な力をつけるため、自ら課題に取り組み、学生同士が学びあうアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を大切にしている。学生が、主体的に判断をする力を身につけ、体験を通して他者と協働しながら課題を解決する授業に取り組んでいる。

iii) 保育士資格・幼稚園教諭二種、小学校教諭二種免許状取得

保育士資格・幼稚園教諭二種、小学校教諭二種免許状を2年間で取得することができる。現役生はもちろん、将来の進路選択、進路変更の一つとして、社会人入学生も多い。入学定員が少ない分、専任教員一人当たりの学生数が約7人と少人数の利点を生かした教育体制を取っている。実習時には、すべての実習先を教員が訪問し、実習先に理解を求めると共に、学生との面談等を実施して、適切なアドバイスを行っている。また、担任制を設け、面談をとおして悩みや不安を解消するほか、キャリアアドバイスをを行っている。

4. 卒業生数・学位授与の状況

卒業生数 国文学科 21名 子ども学科 39名 計 60名

学位授与の方針に基づき、国文学科卒業生に短期大学学士（文学）、子ども学科卒業生に短期大学学士（教育学）の学位記を交付した。

5. 免許・資格取得情報

平成31年度の教員免許・資格取得状況は次のとおりであった。

◇免許・資格取得状況

(単位：人)

	国文学科	子ども学科	合計	卒業生数
小学校教諭二種免許状	0	6	6	国文学科 21人
幼稚園教諭二種免許状	0	29	29	
学校図書館司書教諭	0	4	4	
図書館司書	15	0	15	子ども学科 39人
保育士資格	0	28	28	

(注) 学校図書館司書教諭は、申請者数を示す。

6. FD (ファカルティ・ディベロップメント) 活動

FD委員会が中心となり、教員の教育力の向上、教育内容等の改善等に取り組んだ。

- ① 学生アンケートの実施
- ② 学内研修会の実施
- ③ 公開FD研修会の実施
- ④ 授業改善に係る学生との懇談会の実施 (授業改善FD)

7. SD (スタッフ・ディベロップメント) 活動

職員の資質向上を図るため、大学として組織的にSDを実施した。

対象を教職員としたSDは救急救命研修・学生募集研修を実施するほか、各種外部の研修会へ職員を派遣し、情報の共有・資質の向上を図った。

また、平成31年度彦根長浜地域連携協議会事業として公開SD研修の実施も行った。

## 8. 入学前教育の実施

入学予定者に対して、「入学前サポートプログラム」と称し、高校から大学への橋渡しや、基礎学力や学習意欲の向上をねらいとして取り組んでいる。

入学予定者に向けたオリエンテーションである「プレキャンパスセミナー」を実施し、学習支援、友人作り、不安の解消、学習意欲の向上に向けた取り組みを展開した。

セミナーでは、保護者向けの説明会も実施し、入学前に知るべき情報などを提供した。

## (2) 学生の状況

### 1. 学生自治会・課外活動

学生自治会のもとに大学祭実行委員会や各サークルが組織され、学生の活動の中心となっている。平成31年度のサークル数は次のとおりであった。

◇サークル数

6団体 (91名) ※延べ人数	にじいろサーカス団、バドミントンサークル、陸上サークル、バレーボールサークル、軽音楽サークル、文芸サークル
-----------------------	---

### 2. 学生への経済的支援

経済的に学納金等の納入が困難な学生に対し、様々な支援で就学の機会を確保している。

#### ① 滋賀文教短期大学奨学金制度

本学の発展に寄与する学生に奨学金を給付している。

#### ② 延納及び分納

学納金の納入が困難な学生に対し、延納及び分納支援を行っている。

◇各種奨学金受給者数

種 類	人 数			備 考
滋賀文教短期大学奨学金 I種 200,000円 II種 150,000円	1年生	4	10	I種奨学生 4名 1年3・2年1 II種奨学生 6名 1年1・2年5 返還義務無
	2年生	6		
日本学生支援機構奨学金	1年生	22	39	給付型返還義務無 1年2・2年1 貸与型返還義務有 ※休止中の学生は除く
	2年生	17		
保育士修学資金	1年生	3	9	返還義務有／返還免除有 (滋賀県の保育士養成施設を卒業し、滋賀県内の保育施設に5年間勤務した場合、返還免除)
	2年生	6		

## (3) 進路指導の状況

### 1. 就職・進路支援

2年生に対しては、就職支援講座を引き続き実施してきた。子ども学科の学生に対しては学内保育就職フェアを実施した。

1年生に対しては、入学直後から就職支援講座を行い、新卒の際の進路・就職先だけでなく、将来にわたったキャリア形成について考えた上で進路選択ができるように指導した。国文学科の学生に対しては業界研究合同企業説明会を実施した。

その他、個別面談をとおして、個々のニーズに合わせた就職及び進学への支援、業界及び職種選択の支援をきめ細かく行った。

## 2. 就職・進路結果

平成31年度の就職及び進路結果は下表のとおりである。

○学科別の就職・進路状況

	卒業 者数	一般 企業	児童 養護 施設 ・幼 稚園 ・公 立保 育所 ・公 立小 学	公 務員 ・団 体職 員 ・公 立小 学	護 施設 ・私 立保 育所 ・私 立小 学	私 立学 校事 務 ・私 立小 学	私 立学 校事 務 ・私 立小 学	進 学	所 ・官 公庁 ・福 祉 ・医 療	臨 時職 員 (公 私立 の小 学校 ・ 認定 こども 園 ・幼 稚園 ・保 育 所 ・官 公庁 ・福 祉 ・医 療)	自 営 ・そ の他
国文学科	21	11	1	0	2	0	1	6			
子ども学科	39	6	8	14	0	0	8	3			

## (4) 情報環境の状況

### 1. 学生の情報環境

#### ①情報処理教室

- ・学生用PC 30台 (富士通)
- ・レーザープリンタ 3台 (リコー)
- ・教員用PC 1台 (富士通)
- ・サーバー機 1台 (富士通)

#### ②図書館

- ・学生用PC 16台
- ・レーザープリンタ 1台

#### ③キャリアデザインセンター

- ・学生用ノートPC 2台 (富士通)

#### ④ラーニングカフェ

- ・学生用ノートパソコン 6台 (富士通)

### 2. 図書館の情報環境の整備状況

- ・図書館コンピュータシステム
- ・利用者用端末3台
- ・有料データベース2種
- ・国立情報学研究所の目録所在情報サービス加入継続
- ・国立国会図書館図書館向けデジタル化資料送信サービス加入継続

## (5) 社会活動 (大学開放) の状況

### 1. 湖国カルチャーセンター

◇大学開放講座 開設講座数12 受講人数 236人 実施時間 101時間

後援：長浜市・しが生涯学習アカデミー参画事業

講座名	期間・回数	講師名	受講者数
書道講座－基本と作品制作－ 春学期・秋学期	4月9日～3月17日 (春学期32回・秋学期32回)	国文学科 元非常勤講師 猪飼和喜夫	66

水彩画講座－身近なものを絵にしましょう－ 春学期・秋学期	4月17日～2月12日 (春学期8回・秋学期12回)	子ども学科 元非常勤講師 那須善之	49
『源氏物語』を読みはじめる ～石山地蔵『源氏物語画帖』 と源氏絵～	5月31日～9月13日 (5回)	国文学科 講師 池田大輔	25
「長恨歌」「長恨歌伝」を味わう	5月16日～7月4日 (8回)	国文学科 非常勤講師 野原 薫	10
『ごんぎつね』～新美南吉 の世界にふれる～	6月21日～10月25日 (2回)	子ども学科 非常勤講師 今井知春	10
小学校社会科の授業を体験しませんか	開講せず	子ども学科 講師 伊藤孝子	0
できることから、わたしから	6月26日	改革準備室長 堀 要	8
楽しく学ぼう人権のいろは	7月31日	子ども学科 非常勤講師 今井知春	5
大人から子どもたちへ 「こころに届ける読み聞かせ」	8月28日	国文学科 講師 細田あかね	18
わらべうたでひろがる音楽あそび	9月25日	子ども学科 講師 藤山あやか	11
紙芝居 あなたも輝く演じ手に	10月30日	国文学科 准教授 藤井美津子	26
お米を原料にした手作りおやつ	11月28日	子ども学科 講師 橘那由美	8

○成果発表

作品展	出展内容	日時	場所	備考
書道講座作品展 (図書館共同企画展)	書道講座受講生 出品数30点	令和2年 2/3～2/28	図書館 中央展示 スペース	
水彩画講座 水曜日第8回作品展	水彩画講座受講生 出品数50点 子ども学科(図画工 作I・II履修者) 10点	新型コロナウイルス感染症 感染拡大のため中止	実習館 1階 502号室	

## 2. ぶんぶんひろば開催状況・内容

回	日 時	内 容	参加学生		参加者	
			2年生	1年生	子ども	大人
1	4月24日	ふれあい遊び	13		19	18
2	5月22日	身体を動かして遊ぼう	13		54	42
3	7月17日	さわって遊ぼう	12		40	33
4	8月22日	水遊びをしよう	9	11	111	75
5	10月9日	ミニ運動会		11	28	23
6	10月26日	様々なコーナーで遊ぼう	オープン参加		オープン参加	
7	11月27日	お楽しみ楽器遊び		14	37	31

### (6) ボランティア活動

平成27年度、本学と長浜市、長浜警察署と交通安全推進活動に関する三者協定を締結。

平成31年度もこの協定に基づく交通安全ボランティアのほか、地域で開催される事業（通学合宿・ツデーマーチ等）へボランティアとして学生が参加した。

### (7) 地域社会との交流

#### 1. 長浜市と滋賀文教短期大学との協力に関する包括連携協定による交流活動

長浜市・短大の協力関係を拡充し、地域社会の発展に寄与するため、教育・保育に関する事業、文化の振興に関する事業など多角的に協力し実施するため協定を平成27年度に締結し、保育就職フェア等を開催するとともに、大学の教育への助言を受けた。

#### 2. 長浜市と長浜警察署及び滋賀文教短期大学との交通安全推進活動に関する連携協定による活動

交通事故防止のために一体となって活動し、交通安全意識、交通マナーの高揚を図り地域社会の安全に寄与することを目的に締結し、交通安全ボランティアを組織し活動を行った。

### (8) 国際交流活動

#### 1. 留学生の受け入れ

平成31年度は、タイ王国より1名の留学生を国文学科に受け入れた。平成30年度入学の留学生2名と合わせ3名の在籍となった。

また、本学子ども学科学生を対象に初の試みとして、タイ王国の幼稚園（サハビットバイリンガル幼稚園、マタデースクール）での海外インターンシッププログラムを計画、実施した。

### (9) 学生募集活動

平成31年度（2019年度）の学生募集活動は、昨年度に続き①オープンキャンパス②ガイダンス③高校訪問の3つを中心に実施した。

間接広報の強化として、オープンキャンパスへの参加に繋げるために大学ホームページのリニューアルを実施した。

#### 【入学試験内容】

次の5種類の入学試験を実施した。

1. 育成AO入試（Ⅰ期・Ⅱ期）：エントリーシート、書類審査（調査書）、面談
2. 指定校推薦入試：書類審査（調査書、志望理由書）、面接
3. 推薦入試（A日程・B日程）：書類審査（調査書、志望理由書）、面接
4. 一般入試（前期・後期）：書類審査（調査書）学力試験（国語総合）、面接
5. 社会人入試（前期・中期・後期）：書類審査（志望理由書）、小論文、面接

[入試特典]

育成AO入試：入学料5万円減免

指定校推薦入試：入学検定料2万円減免、入学料12万円減免

社会人入試（前期・中期・後期）：入学検定料2万円減免、入学料免除

【入試結果】（令和2年度入学生）：（ ）は男性数（単位：人）

	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
国文学科	50	34 (4)	32 (4)	31 (3)	27 (3)
子ども学科	50	51 (5)	51 (5)	51 (5)	48 (4)
計	100	85 (9)	83 (9)	82 (8)	75 (7)

(注) 志願者数、受験者数、合格者数、入学者数には委託訓練生も含まれます。

## (10) 教員研究の状況

### 1. 教員研究

研究計画に基づき専任教員が申請することにより、学長の承認を得て、自らの専門分野における学術研究・教材研究に要した経費として、教授には7万円、准教授には6万円、講師には5万円、助教には4万円まで支給した。また、論文執筆に係る加算は17人、18本で計33万円であった。（紀要論文の執筆も含む）

外部資金を活用しての研究業績は、日本学術振興会の科学研究費助成事業の若手研究で1件採択された。また、共同研究者として関わるなど外部資金獲得に留まらず、社会的な信用や存在感を高めることとなった。

### 2. 紀要の発刊

各学科で論文の執筆、共同研究を行い、年度紀要を発刊した。

◇元年度紀要 執筆者 9名 論文 11編

本学機関リポジトリ「滋賀文教短期大学リポジトリ」にて公開している。

## (11) 図書館の状況

### 1. 図書館利用状況

貸出人数	貸出冊数	受入冊数	奉仕対象者
1772人	3101冊	1789冊 (注)受入冊数の内訳 保管 369冊 購入 826冊 寄贈 592冊 弁償 2冊	208人 (注)奉仕対象者は、在学生(118人)、教職員(69人)、学外者(19人)、その他(2人)を指す。

### 2. 広報・展示、その他

- ・「図書館だより」年4回発行
- ・「テーマ別月刊通信」9回発行



- ・テーマ別資料展示 1 1 回（内 3 回は教員による企画展示）
- ・ミニ展示 5 回
- ・司書のおすすめ本 9 回
- ・ブックリスト 1 種作成
- ・図書館公式アカウントによる Twitter

## (12) 施設・設備の状況

- ・智徳館 3 階照明 LED 工事
  - ・図書館 Wi-Fi パス付フリー化
  - ・図書館 Hub Box 設置
  - ・体育館照明器具の LED 化工事
  - ・Wi-Fi 校内設置工事
  - ・新 Web シラバスシステムの導入
  - ・事務用パソコンの更新
- その他、学内環境整備のための環境整備を行った。

## (13) 改革総合支援事業について

平成 27 年度にタイプ 2 の採択を受け、毎年度学内改革に取り組み平成 31 年度においては、タイプ 1 「建学の精神を生かした大学教育の質向上」（教育の質的転換）は不採択となったものの、タイプ 3 「彦根・長浜地域における学術文化教育基盤を目的とした大学・短期大学・地域連携プラットフォーム事業」の採択を受けた。今後も学内改革のため、教職員一体となって取り組んでいくこととしている。

また、特にタイプ 3 で採択を受けた彦根長浜地域連携協議会の活動に置いてリーダー校の一翼を担い、社会貢献を果たした。

## (14) 学長裁量経費の活用

本学の教育・研究、学生支援、生涯学習、地域貢献、国際交流、社会貢献、ボランティア活動など、本学の建学の精神を具現化するため、全学的体制により教育の質の向上、学生の主体的な学習環境等の充実を図ることを目的に教職員の提案に対して事業を選定し実施。

### 選定事業

- ・海外インターンシッププログラム
- ・杉野小・中学校運動会における地域交流とボランティア体験

## (15) 自己点検・自己評価

短期大学は、学校教育法第百九条により、その教育研究水準の向上に資するため、文部科学大臣の定めるところにより、本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について点検及び評価を行った

### 1. 平成 30 年度 自己点検・評価報告書の作成と公表

平成 30 年度の自己点検評価を評価報告書に取りまとめ、ホームページで公表した。

### 2. 平成 31 年度 自己点検の実施

#### ①全学的な方針による活動の自己点検・評価

学長より「平成 31 年度教育研究活動の方針」及び「平成 32 年度教育課程編成の方針」が年度当初に出され、年度末にはその検証が行われた。

#### ②自己点検・評価報告書（各学科）

各学科が春学期の自己点検・評価結果を中間報告書としてまとめ、年度末には1年を通じた活動の自己点検・評価結果を報告書にまとめた。学科では、長浜市や長浜北星高等学校といったステークホルダーの意見も取り入れた自己点検・評価を行っている。

③「教員個人目標点検シート」及び「職員自己点検表」

短期大学基準協会が定める評価基準においては、日常的に点検・評価を行うことと、全構成員が自己点検に関わることが求められており、本学においても、全教職員が実施するような取り組みを行っている。

教員においては、「教員個人目標点検シート」にて教育活動、研究活動、学内活動という項目について年度当初に目標を設定し、各学期ごとに達成度を点検している。

職員においては、「職員自己点検表」にて、同じく年度当初に目標を設定し、各学期ごとに達成度を点検している。また、部署内での問題意識の共有や、コミュニケーションを図るために、職員自己点検表を元にした課長との面談を行っている。

本人の成長したい姿と、組織として成長して欲しい姿を一致させ、効果的な人材育成を目指している。

④「授業アンケート」及び「授業検討表」

各学期ごとに学生への授業アンケートを実施し、アンケート結果は教員の授業検討表に活かされている。